

経験を力に！高校生が踏み出した地域への一歩

多賀城高校で2015年度に実施した「ボランティア教育プログラム」。地域の人たちや団体とともに取り組んだボランティアからの学びを通して多賀城のよいところや課題を見直し、解決のための企画づくりに取り組んできました。

「子どもが楽しく遊べる機会をつくりたい」と考えた高校生たちが、1年間のプログラムのまとめとして3月20日(日)に開催した「家族で防災！わくわくサバメシ体験」。小学生までの親子を対象に、防災について学びながら楽しい時間を過ごしてほしいと企画しました。イベントの運営に奮闘する様子を見た子どもたちからの「こんな高校生になりたい！」という声や、「はじめて知ったことが多くあった」という感想もあり、高校生たちにとって実り多い一歩となりました。

はじめにイベントの目的や内容の説明をしました。多くの参加者がいて、うれしい反面、緊張しています。



今回のサバメシは生地をこねたり伸ばしたりと、子どもたちでも簡単にできる「はつと汁」※「サバメシ」とはサバイバル飯、災害時を生き延びるための「非常食」のこと。

check!

くわしくは、コーディネートを担当したNPO法人ボランティアインフォのホームページをご覧ください。

●「多賀城高校生企画のイベントを開催しました！」

<https://kacco.kahoku.co.jp/blog/volunteer12/63945>

●「ボランティアは夢への近道かもしれない。」

<http://story.volunteerinfo.jp/story028/> *プログラムに参加した高校生のインタビュー



アルミシート体験。薄いけど暖かい！



子どもたちにどのように防災について知ってもらおうかと悩みましたが、楽しみながらできる「〇×クイズ」を行いました。



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **島民みんなが生き生きと輝くような島づくり** 2016年3月3日(木)掲載
第6回地域再生大賞を受賞した「NPO法人かさおか島づくり海社」。生活課題の解決や交流人口の増加をめざした、岡山県笠岡諸島での活動が評価されました。

● **アトピーの悩みを分かち合う** 2016年3月24日(木)掲載
「NPO法人アトピーを良くしたい」ではアトピーで悩んでいる人の支えになるべく、情報交換ができる「アトピーサロン」開催などの活動を行っています。

● **NPOのためのリスクマネジメントとは** 2016年3月29日(火)掲載
リスク発生によるダメージを少しでも小さくするために、リスクの存在とその影響を事前に把握し、適切な対処策を講じておくことが大切です。

“たがさぽPress”とは？



たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ！*ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

「たがさぽ文庫」のご案内

たがさぽの図書スペース「たがさぽ文庫」に新しい本が入りました。NPOや町内会についての本など普段あまりお目にかかれないものもあり、何かをはじめめるきっかけになるような一冊と出会えたり、活動の参考になるようなヒントや新たな視点も得られます。一部の図書を除いて貸し出しも行っていますので、ぜひご利用ください。

NPOの後継者

防災があさん

「地域猫」のすすめ

深刻化する子どもの貧困 子ども食堂を作ろう！

イベント運営完全マニュアル

なるほどデザイン

ささえあう図書館

認知症カフェハンドブック



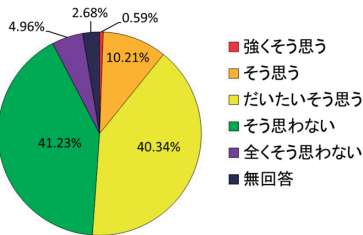
「居場所」づくりを「支えあい」づくりのきっかけに

昔に比べると、ご近所同士の付き合いが少なくなり、互いに支えあう関係も薄れてきているとよく言われます。しかし、隣近所とのつながりが必要だと思う方は多く、特に東日本大震災を経験して、困った時やいざという時には近所の人と助けあいたいと考える方が増えています。

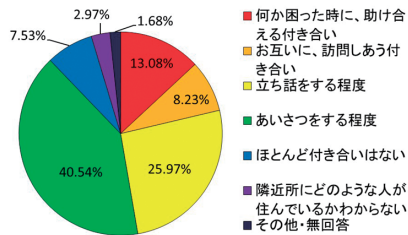
多賀城での「つながりづくり」の実践から

2月に開催したたがさぼ主催の講座「きいてみよう！やさしい居場所のはじめ方」では、ゲストが取り組んでいるコミュニティづくりのお話を通して、居場所づくりについて考えました。

あなたは、あなたの地域が「支えあいのネットワークがあるまち」になっていると思いますか。



あなたは普段近所の方と、どの程度のお付き合いをしていますか。



「多賀城市地域福祉計画市民アンケート」（2015年9月実施）によると、住んでいる地域に支えあいのネットワークがあると思う市民及び、近所の方とある程度以上の付き合いのある市民の割合はそれぞれ半数程度となっています（くわしくは上のグラフ参照）。

Case1

多賀城市東田中南自治会の場合

2ヵ月に1回、自治会の集会所で「サタデーモーニングカフェ」を開いています。自治会の方であれば誰でも参加でき、高齢化が進んで自宅にこもりがちになる住民に外出する機会をつくることで、地域内での孤立を防いでいます。また、住民同士の交流を通して普段から声を掛けあえるような関係づくりのきっかけにもなっています。



くわしくは「tag vol.35」をご覧ください ➡

Case2

家庭文庫「ちいさいうち」の場合

家庭文庫とは、自宅の文庫を開放して本を読んでもらったり、貸し出しを行うものです。市内で「ちいさいうち」を開いている佐々木さんは、学生時代から絵本が好きだったことから家庭文庫をはじめました。近所の小学生が楽しそうに絵本を読んでいた、文庫で知り合ったお母さん同士がおしゃべりしているのを見て、とてもうれしく思っているそうです。



くわしくは「tag vol.10」をご覧ください ➡

求められる「居場所」

この2つの事例を含めて、「ゆるやかに地域の人とつながりたい」「職場や学校以外でホッとできる場所がほしい」「同じ悩みをもつ人同士で気軽に話したい」などの想いから、さまざまな居場所が求められ、つくられています。

まずはご近所同士で肩ひじ張らずに話す場を設けたり、自分の好きなこと・得意なことを活かした居場所づくりの活動をはじめることで、地域の中に新たなつながりが生まれ、支えあいにより深まるきっかけとなるかもしれません。



講座の様子

「居場所づくり」の実践例を聞いて、参加者それぞれが考えや想いをシェアしました。



講座後の交流会

「居場所づくり」がテーマの講座でしたが、この会場も「あれこれ話せる場」となりました。



参加者から出た「感想やアイデア」

- ・特技を活かして、ワークショップを開催したい
- ・最近よく聞く「子ども食堂」の取り組みが気になっている
- ・無理をせずに、できることからやってみることが大事



関連記事のご紹介！ たがさぼ Press より

- 「きいてみよう！やさしい居場所のはじめ方」のご報告 2016年3月6日(日)掲載
- 「子ども食堂」の取組 2016年2月9日(火)掲載



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぼ」ではツイッターもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぼ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>